

### 関東一の祇園 熊谷うちわ祭

うちわ祭は、当地に鎮座する八坂神社のご祭礼です。八坂神社は、文祿年間（一五九二）に京極八坂神社を勧請し、現在鎌倉町にある愛宕神社に合祀されたものであります。

熊谷の夏祭りの起源を示す最初の記録は、江戸中期の寛延三年（一七五〇）に、当時各社ごとに行っていた祭りを町内統一の祭りとする上申書でありました。町役人の許可により、以来町内全体の祭りとなり、現在の祭りの形態が作られました。

その頃の祭事係は、祭りの期間一理町役人と同リ力を持ち、祭りのすべてを取り仕切る祭番となり、形態とともに権限も職々と受け継がれております。

天保年間（一八三〇）は祭りの中興の時代といわれ、重さ二〇〇貫の神輿が新調され、祭りの原点ともいえる全町合同の神輿渡御が始まりました。

またこの頃より、町内各店が祭りの期間中、買物客に赤飯をふるまった事から、「熊谷の赤飯ふるまい」として評判となり、祭りの名物となりました。

「うちわ祭」の名称の由来は、夏の祭りで配布されていたうちわを原点として、明治三十五年頃より、料亭「泉州楼」の主人がうちわを配付したことがあると語り継がれています。東京での修行中、うちわが飛び交うことで知られていた「天王祭」からの影響を受けた主人は、老舗「伊場仙」から決うちわを買入れ、熊谷の祭りに配り始めたことが発端となっています。この「うちわ」の登場が好評を博し、その後、各商店でも屋号などを記したうちわを出したため、買ひ物は熊谷うちわ祭の日といわれるようになりました。

時を同じくして糊塗業などの発展などにより町はさきい、各町就って山車・屋台を購入し、神輿渡御と山車・屋台巡行による現在のうちわ祭の原型はこの時に作られ、今日まで続いております。このように「町民一体として始まった伝統」「江戸からの祭文化の継承」「自ら熱意で祭をつくり上げてきた熊谷人の心意気」が融合し、今や関東一の祇園として発展しております。



継往開来  
令和六年 年番町 第壹本町区  
大総代 萩原直幸

令和二年から蔓延したコロナ禍は二年間の神事のみ催行、その後の二年間はコンパクト化縮小された形での催行がなされてきました。この四年間の年番町の皆様方の並々ならぬご寄与ご努力には改めて感謝と敬意を申し上げます。

このような状況下、令和六年、年番町第壹本町区は魁を担っている町区としての役割を果すと見られております。

そこで、大々方針として本年はコロナ禍前の熊谷うちわ祭のスタイルに戻すことを前提に企画運営させて頂きます。熊谷の活力の源と称されている熊谷うちわ祭を四年間のフラッグをほのけて完全復活させていく決意のもと第壹本町区一九九として邁進したいと思っております。

しかし、それは五年前の形をそのまま復活させるものであつてはならぬと承えております。魁としての年番に相応しい形で完全復活を目指してまいりたいと思っております。五年前の形での熊谷うちわ祭には数々の要解決事項が内蔵されていると感いたします。これらを一一つ丁寧に解決し、最低でも今後八年間無事故で盛大な熊谷うちわ祭が持続可能な形で開催できる形を示していきたいと思っております。

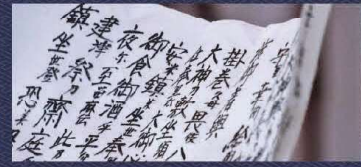
【継往開来】（先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く事）の精神のもと下記の重点項目を解決し、皆様方とともに明るく楽しい熊谷うちわ祭の実現に努めたいと思っております。皆様方のご協力とお力添えを衷心よりお願い申し上げます。

#### 【重点事項】

熱中症予防と対策の徹底

練馬警備の徹底

持続可能なうちわ祭りの運営方法の構築



## 関東一の祇園 熊谷うちわ祭

熊谷市指定無形民俗文化財

7.20 21 22

熊谷うちわ祭公式ガイド 2024

令和六年 年番町 第壹本町区









